

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 36

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからご覧いただけます。

「岩手大学学生向け海洋・水産セミナー」が開催されました

12月2日、「岩手大学学生向け海洋・水産セミナー」（主催：いわて海洋研究コンソーシアム）が岩手大学農学部を会場に開催されました。

いわて海洋研究コンソーシアムは、三陸沿岸地域における海洋に関する研究の推進を目的に、沿岸地域の海洋研究機関や公益法人、岩手県、沿岸自治体などで構成され、岩手大学は東日本大震災後、釜石市に三陸水産研究センターを設置するのを契機に平成23年11月に参画しました。

海洋・水産セミナーは、三陸海域をフィールドとした調査研究の成果を広く県民の皆様へ還元し、海洋・水産研究に興味をもってもらうことを目的としています。

セミナーでは、本学の卒業生も含めた各分野の第一線で活躍する講師陣により、東日本大震災後の海洋環境や水産業の現状から、大型船を使った海洋調査の実態に至る幅広い研究内容が紹介されました。

岩手大学では水産業の復興に向けて、平成28年度に農学部の水産システム学コースを設置することを計画していることから、阿部周一

三陸水産研究センター特任教授（副センター長）による、同センターで行われているサケ類の増養殖の研究に関する講義をはじめ、今回のセミナーは、盛岡市の上田キャンパスで学ぶ学生にとって、三陸沿岸を中心とした最新の海洋・水産研究を知る機会となりました。

セミナーには学生や教職員など、併せて70名以上が来場しました。岩手大学では若い世代が海洋・水産研究に興味を持ち、将来、三陸沿岸で活躍するきっかけをつくることのできるような取り組みを今後も行ってまいります。



サケの研究について講義を行う
阿部特任教授



聴講者で後ろまで埋まった講義室

プログラム

① 漁業に影響する海洋環境（水質・プランクトン）について

岩手県水産技術センター 漁場保全部 加賀克昌 主査専門研究員

② アワビ・ウニの漁業について

（独）水産総合研究センター 東北区水産研究所
沿岸漁業資源研究センター 堀井豊充 センター長

③ サケ類の増養殖の取り組みについて

岩手大学 三陸水産研究センター 阿部周一 特任教授

④ うなぎの未来・ウナギの謎に満ちた生態とその危機

北里大学 海洋生命科学部 吉永龍起 講師



「ビジネスマッチ東北2014」に出展しました

11月6日、夢メッセみやぎで開催された「ビジネスマッチ東北2014」に出展しました。食や観光、ものづくりに関わる463の企業団体が参加し、7,331名の来場者がありました。

岩手大学のブースでは本学の活動のほか、(株)ミナミ食品（洋野町）より、地元産にこだわったハーブティーなどの桑の葉商品、浄土ヶ浜レストハウス（宮古市）より宮古の浜の味調味料「たつとシリーズ」、(株)川喜（釜石市）の独自殺菌技術（岩手大学が技術支援）で無添加を実現した「南部地粉そば」、地元のカレーハウスcafe de curry Kojika（大船渡市）よりレトルトカレーやたまねぎペーストなど、各エクステンションセンターのコーディネーターがアレンジした、岩手県沿岸被災地企業の製品を紹介しました。また、水産加工会社からは岩手大学も共同研究などで連携している釜石ヒカリフーズ（株）（釜石市）と(有)三陸とれたて市場（大船渡市）の紹介や、(株)エイワ（釜石市）のいわて発高付加価値コバルト基金「COBARION®」

の展示も行いました。

岩手大学のブースは多くの方にお立ち寄りいただき、食品会社や観光施設などから具体的な質問も寄せられ、盛況のうちに閉幕しました。



岩手大学ブースの様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸くなって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、被災地で生産された作物のブランド化に取り組んでいる農林畜産業復興推進部門 園芸振興班の活動の一例をご紹介します。

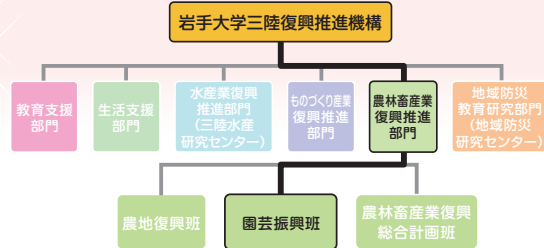
栽培支援から流通・加工支援へと広がる活動

岩手大学三陸復興推進機構 農林畜産業復興推進部門 園芸振興班
松嶋 卯月（農学部 准教授）

私たち園芸振興班は東日本大震災で被災した地域の農業振興をお手伝いするために、地域の気候にあった園芸作物栽培法を確立し、その作物を地域の新しいブランド商品として流通・販売の支援をすることを目的とし活動を続けています。現在、三陸地域の気候にあった作物として、ミニカリフラワー、クッキングマト、夏どりイチゴの栽培法を考案し、現地の生産と共に地域ブランド化を目指しています。

栽培試験の過程で、早どりするとより美味しく実ることが分かったカリフラワーは、小さな花蕾の可愛らしさと、おいしさを表現する「姫かりふ®」の名称で、岩手大学より商標登録されました。すでにレストラン等との取引がある「姫かりふ®」ですが、震災からの復興を目的として生産したカリフラワーに商標を無償で使用できるようにすることで、新しい三陸のブランド商品として羽ばたくことを期待しています。

すでに栽培法が確立されたクッキングマトのプロジェクトは、生産地の三陸と消費地をつなぐ流通システムを構築する段階に入り、本年度は、盛岡や東京の発注者と陸前高田市の生産者がメーリングリストで取引を行う体制を



整えました。また、クッキングマトを簡単に美味しく食べる調理法を広めつつ、消費者の動向を調査するために、盛岡市材木町のよ市の岩手大学ブース等で8月と9月に3回、販売イベントを開催しました。開催2日目からは、前回購入し美味しかったから、とリピーターが数多く訪れ好評を博しました。来年度はさらに輪が広がるように生産と流通システムの構築を進める予定です。

田野畑村のシタケ生産者に導入された入門用夏どりイチゴの栽培システムは、入門用の役割を果たし、生産者が初めて栽培したにもかかわらず、この夏を通してイチゴが出荷されました。そこで、その栽培や販売の方法、課題を議論するために、10月に研究会「三陸で夏イチゴを作ろう in 田野畑」を開催したところ、岩手県だけでなく、東京、青森からの40名近くの参加者が活発に討議し、夏イチゴ生産拠点として、三陸のポテンシャルの高さが感じられました。来年は大槌町にもこの夏イチゴ栽培システムが導入されます。



早どりで美味しいいただく「姫かりふ®」



クッキングマト販売イベントの様子

久慈エクステンションセンターだより

●いわての浜料理選手権・九戸地区大会 『“北三陸いわて” 浜料理のつどい』

このイベントは浜の賑わいやコミュニティ再生に、漁家女性の活動を地元活力とすることを目的に沿岸全4地区で開催されるもので、10月4日に九戸地区大会が県立久慈東高校で開催されました。当日は洋野町、久慈市、野田村、普代村の全6漁協の女性部の皆さんが趣向を凝らした料理を持ち寄りしました。イベントタイトルは「選手権」となっていますが、地区大会名称の『浜料理のつどい』のとおり、料理を通じて参加者同士の交流促進を意図しています。

料理はお膳や定食形式とし、材料費は1食500円以内、県産水産物の消費拡大につながる料理を含めるなどの規定があります。

実際に料理を試食させて頂いたところ、どれも素材の特徴をしっかりと味わえるように考えられた料理がほとんどで、下処理にかける手間や工夫は相当にされていました。また、どの料理も減塩が徹底されていたことで、健康に十分配慮してメニューを考案されたことがうかがえました。これらの料理の中で特に印象に残った「小子内浜漁協のサケのムニエル」と「普代村漁協のすきコンブ春巻き」の2つをご紹介します。

サケのムニエルは皮付きながらも魚の匂いをまるで感じさせず、塩味を

抑えた梅肉ソースとの相性の良さに驚きました。すきコンブ春巻きは、油で揚げずにゴマ油で焼いた香ばしさとコンブの軽さとのど越しの良さが相まって、つい何度も箸が伸びてしまうおいしさと食べやすさが非常に新鮮でした。

日頃食べ慣れている三陸の食材も、調理の工夫でまだまだ新しいおいしさを創り出せる可能性を見ることができた、楽しいつどいの場でした。

審査の結果（審査委員長：井ノ口伸幸岩手大学客員教授）、地区代表は種市南漁協・宿戸女性部に決定し、27年1月に宮古市で開催予定の県大会に出場します。他の地区からもハイレベルな料理が出て来ると思いますが健闘を期待します。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 久慈エクステンションセンター
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号 久慈市役所 (3階) 産業開発課内
TEL : 090-2953-2519 E-mail : kujjext@iwate-u.ac.jp



地区代表となった種市南漁協の料理。「あまり高価でなくても、高級感のある料理に仕上げました」とのコメントです。

Information

岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム

岩手大学では、三陸復興推進機構を設置し、釜石市、久慈市、宮古市、大船渡市に設置したサテライト・エクステンションセンターと連携し、被災地のニーズを汲み上げながら、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに、様々な震災復興支援活動に取り組んでいます。

震災から4年を迎えようとする平成27年1月に、三陸復興推進機構の取り組みをご紹介します。

日時：平成27年1月31日(土) 13:30~17:00
会場：岩手大学工学部復興祈念銀河ホール
内容：三陸復興推進機構各部門の活動報告、パネルディスカッション
活動内容や成果品の展示コーナー

問い合わせ先 岩手大学三陸復興推進課(濱田・岩淵)
電話:019-621-6629 メール:sanriku@iwate-u.ac.jp

入場無料